

2018 年度 脊椎脊髄病学会、日本側弯症学会合同、社会保険等システム検討委員会

日時：2018 年 2 月 1 日（木曜）18：30～

場所：東京医科大学新教育研究棟 10F 1002 号室

出席（順不同）：大川 淳、青田 洋一、高野 裕一、遠藤 健司、吉井 俊貴、鈴木 秀和、山田 浩司、山縣 正庸、平泉 裕、宮城 正行、井上 玄、酒井 大輔、谷口 優樹、八木 満、藤田 順之

欠席 渡辺航太

議題

1) 外保連の役割、診療報酬改定、要望提出に関する解説

山田委員、吉井委員、遠藤委員より、スライド資料にそって解説された。

2) JASMISS と側弯症学会に社保委員会が設置されたため、今後は術式ごとに 3 学会に分担し、三学会からの要望が重複しないようあらかじめ調整する。JASMISS については外保連加入していないので、外保連の実務は高野委員に審議、事務手続きを一任する。

討議事項

平成 32 年度、アンケート、試案、要望項目の検討(新規 5、改正 8)

平成 30 年度要望の結果は資料 1 参照。頸胸椎後縦靭帯骨化症手術(前方進入)、椎間板摘出術+高位の違う椎弓切除の算定 (JOA が主学会)、K142 脊椎固定術適応拡大(腰椎分離部修復術ならびに歯突起骨折骨接合術)が承認される見込みとなり、頸胸椎後縦靭帯骨化症手術の施設基準の骨子を「脊椎又は脊髄に係る手術について 200 例以上の経験を有する医師が配置されており、かつ整形外科又は脳神経外科について 10 年以上の経験を有する常勤の医師が 1 名以上配置されていること。」とする。日本整形外科学会との共同提案となった椎間板摘出術+高位の違う椎弓切除の算定も収載見込みとなった。

不採用だった項目(新規では高度脊柱変形に対する椎間板郭清または椎体骨切りを伴う後方矯正固定術、立位全身骨撮影、改正では脊椎固定術の患者適合型手術支援ガイド、脊椎手術の術中透視装置使用加算(防護対策実施時))と JSSR 評議員より回収した平成 32 年度 診療報酬改定に向けたアンケート結果を大まかに 3 学会に振り分けた。今後、問題点や異論あれば協議する。

「脊椎手術の術中透視装置使用加算(防護対策実施時)」についての説明

平泉委員より。次回再提出は JSSR 主学会が望ましい。

外保連委員について

外保連委員

実務：JSSR：鈴木、吉井、**側弯**：宮城、井上

手術：JSSR：遠藤、山田 高野、**側弯**：八木、藤田

処置：委員長 平泉、JSSR：鈴木、武者、**側弯**：酒井

麻酔：JSSR：吉井 **側弯**：酒井

検査：JSSR：山田、武者 **側弯**：谷口

広報：処置委員長：平泉 JSSR：山田

山田先生が手術データベース立ち上げにより多忙なため、オブザーバーとなっていた
だく。手術委員は高野先生に変更する。検査，広報については次回検討。

JSSR では次回開催予定を日本脊椎脊髄病学会での4月12日、側彎症学会は未定とす
る。